

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中淳一	所 属		理学部海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	学部の海洋有機化学、同実験、化学入門II、有機化学II、基礎ゼミなどの授業を学生に興味をもたせるように進める。研究室の学部4年次と大学院生には適切な教育・研究指導を行い、今年度は各2名の学士と修士の学位取得に向けて努力する。			0.35	左記の授業を滞りなく行っている。研究室の学生(後期3名、前期3名、学部2名)の指導を行い、9月にOIMAPの修士1名、2月に修士2名、学士2名を卒業させる予定である。また、6月からは産学連携研究員1名、10月からDDPの学生1名を受け入れて指導にあたっている。		
研究	0.35	産学連携等研究経費(知的クラスター事業-創薬)および科研費(基盤C)では海洋生物を素材に抗感染症リード化合物の発見を目指す。査読付き国際誌での研究論文を5報以上出すとともに、学会等で研究発表の機会をもちたい。			0.35	査読付き国際誌に共同研究者とともに5報出した。産学連携等研究経費(知的クラスター事業)、OISTの田中准教授との共同研究、沖縄TLOによる沖縄産海綿の研究、科研費(基盤C)、学内の中期計画関連の経費等をいただき、それらの研究を進めている。また、県内、県外、国外での学会で発表を行った。		
社会 貢献	0.10	沖縄科学技術振興センターの知的クラスター事業(創薬、最終年度)での成果等を通じて産業界(Meiji Seikaファルマ、OPBio、AVSS)へ貢献できるようにしたい。また、マスコミに協力依頼されている件では積極的に情報提供する。			0.05	沖縄科学技術振興センターの知的クラスター事業(創薬、最終年度)で産業界(Meiji Seikaファルマ、OPBio、AVSS)とともに、感染症等に有望な物質の研究を行っている。琉球真珠(株)と海綿の養殖ならびに有効利用について研究を進めている。NHKの番組でこの分野の研究内容を紹介した。		
管理 運営	0.15	化学系主任、海洋自然科学科長、海洋自然科学専攻主任、4年次指導教員として化学系の運営、学部内の各種委員会(代議会、教育委員会、自己評価委員会、将来計画委員会、OIMAP委員会、研究推進委員会)等で責務を果たす。			0.20	化学系主任、海洋自然科学科長、海洋自然科学専攻主任、4年次指導教員、その他の委員として化学系の運営、学部内の各種委員会(代議会、教育委員会、自己評価委員会、将来計画委員会、OIMAP委員会、研究推進委員会)、大学院入試、学部の推薦入試等で責務を果たしている。		
進路 指導	0.05	研究室の学生のうち、進学希望の4年次の2名と修士の1名、および就職希望の修士の1名に対して、適切なアドバイスを行う。また、4年次指導教員でもあるので、企業からの来訪者への対応、および求人情報の案内などを行う。			0.05	研究室の学生のうち、4年次2名はそれぞれ神戸大学、北陸先端技術大学に進学予定である。一方、修士2名のうち、1名は科搜研へ就職しているが、もう1名は未定である。4年次指導教員(就職担当)でもあることから、求人企業との連絡等を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		棚原 朗	所 属	理学部 海洋自然学科 化学系	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	講義「機器分析」へ技術職員による教育支援(機器操作, メンテナンス等の現場体験に基づく講義) 「機器分析」「放射化学」: 学生の授業評価をHPで公開しそれに基づく意見等を授業へ反映		0.30	講義「機器分析」へ技術職員の教育支援をもらった。 学生からの授業評価を個人のHPで公開した。 冊子「琉球列島の自然講座」へ執筆(共著)した。 物理系開講の講義「核の科学」へ2コマ担当した。 新たに共通教育課目「化学II」を担当した。	
研究	0.35	学会誌への論文投稿 所属系以外との共同研究 受託試験のPRを積極的に行い外部資金の獲得をめざす。		0.30	生物系教員との共同研究を行い, 論文(共著)を投稿した(Scientific Reports)。 京都教育大学との共同研究で, 論文(共著)を投稿した(地域生活学研究)。	
社会貢献	0.10	沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員 福島原発事故に伴う放射能に関する外部からの相談に対応 県内高等学校へ化学系の紹介を行う。		0.10	沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員(継続) 県内高等学校(向陽高校)へ化学系の紹介を行った。 放射能問題に関し, 学外から相談を受けた(1件)。	
管理運営	0.20	化学系の管理運営に参画 RI施設の放射線取扱主任者として従事		0.20	広報委員, 施設整備委員, 入試関連の委員を務めた。 RI施設の放射線取扱主任者として従事した。	
進路指導	0.05	学部学生へ大学院進学を啓蒙 学部学生へ国家資格等の取得をPR及び支援		0.10	教員志望の学生が多かったので, 大学院進学を啓蒙した。 化学系で取れる資格取得について, 講義(基礎ゼミ, 放射化学, 機器分析)内容に絡めてPRした。第二種放射線取扱主任者に1名が合格した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		米藏誠哲	所 属		海洋自然科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.34	・来年度に向けた物理化学実験の教材開発、および統計熱力学の講義の準備をする。		0.34	・物理化学実験の教材(生成エンタルピー)を製作した。統計熱力学の講義は開講を延期した。これまでの量子化学と構造化学を統合した講義を新たに提供した。			
研究	0.48	・これまでの研究(電気泳動ロッキングラチェット、化学パロンドゲームの研究)をまとめ公表する。 ・一次元非バイアス輸送、断熱ポンピング、ソフトマターメモリスタの研究を実施する。		0.48	・これまでの研究(電気泳動ロッキングラチェット、化学パロンドゲームの研究)については公表に至っていない。 ・卒業研究生とともに、断熱ポンピング、バブルスイッチング素子の開発を実施した。			
社会貢献	0.02	・高等学校用化学教材の試験・開発を行う。		0.02	3Dプリンタや市販ブロックを活用した教材の製作を試験した。			
管理運営	0.14	・化学系委員会委員(教務委員会)の仕事をする。 ・卒研・修論発表の世話人の仕事をする。 ・その他の学内委員の活動を行う。		0.14	・化学系委員会委員(教務委員会)の仕事をした。 ・卒研・修論発表の世話人の仕事をした。 ・その他の学内委員の活動を行った。			
進路指導	0.02	・卒業研究生(2名:教員希望、1名:民間企業)について採用試験・就活配慮した指導を行う。		0.02	・卒業研究生について採用試験・就活を配慮した指導を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中川 鉄水	所 属		海洋自然科学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	今年度就任した化学実験の責任者を全うすると同時に、より質の高い教育を提供すべく改善に努める。授業外で学生有志による英語セミナーを行っているため、学生の英語スキル向上を目指す。普段の授業外でも学生と積極的に交流し、学生のニーズや課題を把握し、教育に役立てる		0.40	化学実験責任者として様々な提案と改良を行った。特に安全教育用の視聴覚教材や時計、温湿度計などを導入した。化学実験ではプロフェッサーオブザイヤーを受賞した。英語セミナーではネイティブスピーカーを雇用し、学生の英語力向上に大きく役立った。専門実験では新たなテーマを導入した。
研究	0.50	昨年は学内予算は獲得できたが外部資金を得ることができなかったため、最低1つは得る。論文を最低2報を目標とし、新たに始めた研究テーマを上げ、他研究室や他学部、他大学との連携による研究体制を整える。また、実験環境が完全には整備されていないため、現状行うことが可能な研究を展開しつつ、できることを増やしていく。		0.35	学内予算を獲得したが、外部資金は18件中12件不採用(1月現在。6件は2月以降に採否決定)となった。新たな研究も開始し、卒研生のテーマとした。国際研究会2件(うち1件招待講演)、国内学会2件、国内研究会10件(うち1件招待講演)発表した。論文は1報掲載され、もう1報は現在投稿中である。
社会貢献	0.05	引き続き異業種交流会に参加し、沖縄の抱える問題を把握し、解決に取り組む。化学系OBの運営している会社と連携し、学生や地域の人々に向けた講習会を開催する。琉大書道部OBと連携して書道部を復活させ、学生とOBとの交流を起点に沖縄の書道界を活性化させる。		0.05	異業種交流会3件に参加し、人脈を広げた。化学系OBの運営するTopothesiaの協力により職業能力開発セミナーを開催し、今後も続けることとなった。沖縄産業まつりとオープンキャンパスに体験コーナーを出展した。琉大書道部OBの書道展に作品を出品し、今後もOBの運営団体と連携することとなった。
管理運営	0.05	系会議で積極的に提案を行いたい。今年度から学部長の提案により、理学部長室がサロン化(意見交換の場)するため、学部長を訪問して情報収集や情報提供、意見・改善案を提案する。		0.05	日韓との関係強化に取り組んだ。韓国留学生フェアに参加し、済州大学との部局間提携で教員交流および学生交流を積極的に行った。また、前期に開催された学部長との意見交流会も積極的に参加し、情報収集と意見陳述を行った。系会議では積極的に発言を行った。
進路指導	0.05	2年次の指導教員であるため特に仕事は少ないが、学生の就職活動への助言を行っていきたい。研究指導を行っている4年次には、進学予定先と連携したテーマを与え、入試の情報提供や受験に関する助言を与え、合格へ導く。		0.05	指導教員となっている2年次生にメールや口頭で積極的に情報を発信した。研究室に配属した4年生には広島大学を訪問させ、進路の選択肢を与えた。また、2名を筑波大学を紹介し、2名とも進学することとなった。
研究会運営	0.05	沖縄で水素若手研究会とそれに付随した小さな国際会議を開催するので、不備なく成功させる。		0.10	水素若手研究会と国際シンポジウムの運営を行い、いずれも成功に導いた。特に若手研究会では助成金を獲得し、運営に大いに役立てた。ただ、国際シンポジウムは直前のキャンセルが相次ぎ、結果的に海外からの参加者が少なかったため、今後の反省としたい。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石田 哲夫	所 属		海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミで、代謝生化学の観点から食事の意味を学生が理解し、実際の食生活にその知識を生かせるように工夫する。 ・セミナーIと卒業研究Iでは、手取り足取りの丁寧な指導を行い、卒業までに酵素の研究を学会発表できるレベルまで展開できることを目指す。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化学IVの講義で、資料を毎回配布し、すべての生物に共通する代謝経路の有機化合物と関連する酵素反応に重点をおき、行った。 ・化学1の講義を工学部学生52人に行い、自習を促すため課題を11回課した。 ・卒研の学生が2人とも大学院前期課程に進学予定である。 		
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・D-アスパラギン酸酸化酵素についての論文、ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼについての論文、フロンタルゲルクロマトグラフィーの論文を学術専門誌に投稿し、受理・掲載を目指す。 ・JSTのA-STEP FSステージ(探索タイプ)の募集があれば、酸素センサー開発で応募する。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・総説「フラビン酵素の低酸素下で増強する基質活性化と阻害」(単著)が日本生化学学会誌に印刷中。 ・共同研究論文2件を発表(Mechanism. Develop とActa Histochemica)。 ・JSTのA-Step(探索タイプ)に応募したが非採択。 		
社会貢献	0.00				0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・西原市海外移住者子弟研修生の研修生一名を2か月間受け入れ、生化学の基礎研修をマンツーマンで行った。 		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内委員(ハラスメント相談室相談員)として協力する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・入試関連の業務に協力した。 		
進路指導	0.00				0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		堀内敬三	所 属		海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・担当2年目の「化学Ⅱ」の講義内容を充実させる。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の内容を整理充実させる。 ・大学院講義「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容を検討し、より分かり易い内容にする。 			0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学Ⅱ」の講義内容の改訂を行った。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の整理充実を3月までにはできる予定。 ・「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容の改訂を行った。 ・新たに「科学方法論」を分担担当した。 		
研究	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文(二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンドYNAMIX)を投稿する。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に投稿準備中の論文について、データの解析をやり直すことにしたので、今年度中の投稿はできなかった。 ・学外研究者との共同研究を推進するすることができた。 		
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民を対象に公開授業(「化学Ⅱ」)を行う。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・教員免許更新講習の講師を担当する。 ・日本化学会九州支部幹事を務める。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業(「化学Ⅱ」)に1名の社会人受講生がいた。 ・オープンキャンパスで講義を担当した。 ・教員免許更新講習は受講生が少なく、開講しなかった。 ・日本化学会九州支部幹事として、幹事会等に出席した。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学学士教育プログラム委員会の化学系委員を務める。 ・理学部教育委員会委員を務める。 ・全学教育委員会専門基礎科目企画小委員会委員を務める。 ・全学教育改善等委員会委員を務める。 ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・化学系入試方法検討委員会の委員を務める。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・化学系の教育プログラムの改善を行った。 ・理学部教育委員会でFD委員等を担当した。 ・全学教育委員会専門基礎科目企画小委員会委員を務めた。 ・全学教育改善等委員会委員を務めた。 ・大学案内作成委員を担当した。 ・入学者選抜方法等検討委員会の委員を務めた。 		
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究担当学生の進路指導を行う。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した3名のうち2名の就職が内定した(1名はうるま市役所、1名は沖縄県警)。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		荻原 和仁		所 属		海洋自然科学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.40	実験実習の授業においては、受講生の学習能力を高めるために、ティーチングアシスタントを教育し、十分に活用する。さらに、安全教育を行う。授業を計画的に進めるために、授業計画書を作成する。レポートおよび試験の採点に関して、採点基準を明確にして、採点する。演習の授業では、積極的に学生を授業に参加させるために、毎時間、受講生を指名して問題の解答を板書させ、板書した解答に至った理由・根拠をみんなの前で説明させ、最終的に解答を提示し、受講生みんなが理解できるように授業を進める。先修科目の化学Ⅰの講義では、高校の復習を取り入れながら、何処からが大学で習得すべき事柄かわかるように授業を進める。専門科目有機化学関連の授業では、先修科目(化学)の講義内容の復習を混ぜつつ、学生の理解度を確認しながら、ある時は授業をフィードバックさせる等して学生の修得度に沿って授業を進め、先修科目から専門科目までの有機化学の授業の一貫性をはかる。				0.40	実験実習の授業においては、受講生の学習能力を高めるために、ティーチングアシスタントを教育し、十分に活用した。さらに、安全教育を行った。授業を計画的に進めるために、授業計画書を作成した。レポートおよび試験の採点に関して、採点基準を明確にして、採点した。演習の授業では、積極的に学生を授業に参加させるために、毎時間、受講生を指名して問題の解答を板書させ、板書した解答に至った理由・根拠をみんなの前で説明させ、最終的に解答を提示し、受講生みんなが理解できるように授業を進めた。先修科目の化学Ⅰの講義では、高校の復習を取り入れながら、何処からが大学で習得すべき事柄かわかるように授業を進めた。専門科目有機化学関連の授業では、先修科目(化学)の講義内容の復習を混ぜつつ、学生の理解度を確認しながら、ある時は授業をフィードバックさせる等して学生の修得度に沿って授業を進め、先修科目から専門科目までの有機化学の授業の一貫性をはかった。				
研究	0.30	本年度10～11月にかけて開催される学会等で研究成果の発表を行う。沖縄産植物の成分研究に関する論文の執筆を開始する。				0.30	口頭発表: 玉木・渡辺・○荻原、「ゲットウの花の精油とその香気特性」、第58回 香料・テルペン及び精油化学に関する討論会(9月20-22日、和歌山大学)。論文:T,Suzuka, K. Ogihara and M. Higa, Transfer Reduction of Aryl Chlorides with Potassium Formate in Water Using Polymer-Supported Terpyridine Palladium Complex, trans. Mat. Res. Soc. Japan, 30 (2), 235-238 (2014).				
社会貢献	0.05	琉球大学生協の理事として、関係の議題について審議する。				0.05	琉球大学生協の理事として、関係の議題について審議した。				
管理運営	0.15	化学系内の委員会(3つ)の委員として、各関係の議題について審議する。理学部の委員会(2つ)および全学の委員会(1つ)の委員として、関係の議題について審議する。				0.15	化学系内の委員会(3つ)の委員として、各関係の議題について審議した。理学部の委員会(2つ)の委員として、関係の議題について審議した。				
進路指導	0.10	研究室配属の大学院生および学部4年次の学生の進路について、助言・指導する。				0.10	研究室配属の大学院生、学部4年次の学生及び過卒生の進路について、推薦書の作成等並びに助言を行なった。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		安里英治	所 属		理学部 海洋自然科学科 化学系
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	1)「化学II」ではリフレクションシート制を導入し、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握に勤め、教育効果の改善につなげる。 2) 正規の授業以外に研究室単位で「雑誌会」を毎週開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上につとめる。 3) 単位取得率の低い「無機化学II」では、小テスト制を導入して学生の理解と単位取得率向上につとめる。		0.35	1)「化学II」ではリフレクションシート制を導入し、学生の理解度や講義への感想・要望を把握することができ、教育効果の改善につながった。 2) 前期の毎週、高良研究室と共同で「雑誌会」を行い、研究室所属学生の研究指導に役立てた。後期は修士2年生の研究時間確保のため、雑誌会を取りやめた。 3) 小テスト制を導入しているが、学生の授業評価アンケートでは比較的好評であったものの、単位取得率に大きな改善は見られなかった。
研究	0.35	1) 佐賀大、山形大との共同研究、北九州高専との共同研究を推進し、学会で成果報告を行う。 2) 研究成果を国際誌へ1報以上投稿する。 3) 錯体化学会会員として、例えばポスター賞審査員等の役割を通して「錯体化学討論会」運営に協力する。		0.35	1) 佐賀大、山形大との共同研究を「錯体分子素子研究センター2014年シンポジウム(国際シンポジウム)」で口頭発表した。 2) 山形大との共同研究を国際誌へ投稿。現在審査中(1報) 3) 錯体化学第64回討論会の日英ジョイントシンポジウムオーガナイザーとして会の運営に協力した。
社会貢献	0.10	1) 県内高校へ出向いて化学系の紹介を行うなど、化学系広報活動を通して教育研究活動に関する情報発信に務める。		0.10	1) 今年度は高校側からの訪問依頼が少なかったため、今日現在、高校訪問は実現していない。3月末までに依頼があれば、アウトリーチ活動を実施する予定。
管理運営	0.10	1) 本年度の全学委員、理学部委員、化学系委員の職責を全うする。		0.10	1) 本年度の全学委員、理学部委員、化学系委員の職責を全て全うした。
進路指導	0.10	1) 研究室所属学生(M2:2名、B4:1名)に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。 2) 2年次指導教員として履修・生活指導等、きめ細かな指導を行う。		0.10	1) 修了対象の学生2名のうち、1名は公務員(那覇市)への就職を実現させた。残り1名と卒業対象1名は本人の希望により、就職活動を行っていない。 2) 2年次指導教員として全学生のメールリストを利用し、履修・生活指導等に役立てた。迅速かつ正確に伝達出来る体制によってきめ細かな指導ができた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		漢那 洋子	所 属	海洋自然科学科 化学系	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	●専門科目の「光化学」について、構造化学的な内容を強化する。 ●専門選択科目「アドバンスト物理化学」に取り入れる演示実験の種類を増やす。●担当科目全般の改善に努める。●新規開設される共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の1部を担当する。		0.23	●現在およびこれまでの担当専門選択科目「反応速度論」「光化学」「量子化学」「構造化学」の内容等を整理しながら、専門選択必修科目「物理化学Ⅳ」(およびⅢ)の来年度開講に向けて準備・段取りを始めた。●「光化学」において構造化学的な内容(電子遷移)を例年より少し強調して講義した。●「光化学」「アドバンスト物理化学」において従来通り演示実験を取り入れた講義を行なった。●今年度新規開設の共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の1部を担当し現代科学論の観点から講義した。●その他、「化学Ⅰ」「物理化学実験」「科学方法論」「基礎ゼミ」等を従来通り担当した。●卒業研究の指導を行なった。	
研究	0.35	●光で起こる化学変化・現象に関して、新しいテーマを開拓する。●たんぱく質と結合した分子の光反応について、論文を執筆する。●光化学を題材にした科学教育の研究について論文を投稿する。●国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」のテーマに取り組む。		0.23	●分担執筆した「光化学の事典」(朝倉書店)が発行された。●これまで研究題材としてきたフotokロミック反応系に関して、新規な混合溶媒系を用いて新たに蛍光測定の研究を開始した。●色素溶液の色と分光分布に関するテーマを再開した。●光化学を題材とした科学教育の研究において、その取扱い方法・課題設定方法に関する新しい試みを始めた。(過去の取組みについては論文まとめ中)●ジェンダーと自然科学に関して、引き続き、先行研究調査および現在の研究動向調査を行なった。	
社会貢献	0.15	●今年度の「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として、1講座を担当する。●公益法人日本化学会の代表正会員を務める。●県内の教育機関等から依頼があれば、出前講義等を行う。		0.23	●「教員免許更新講習」の選択科目「光と物質—色と化学変化—」を石垣市にて開講した。●日本化学会の代表正会員として会員増強活等に努めた。●沖縄理科・化学教育懇談会の幹事を務めた。●沖縄県立開邦高校にて光化学の出前講義を行なった。(2回)●オープンキャンパス男女共同参画室企画「女性研究者による理系女子への自然科学分野の紹介」において、光化学を中心とした自然科学分野紹介の講演・演示実験および自然科学分野における男女共同参画の意義の紹介を行った。●沖縄県立総合教育センターの短期研修講座(高等学校「化学」講座)にて講師を務めた。●化学系説明会・高校訪問(沖縄県立首里高校)にて光化学の紹介を行った。●沖縄県内の高校生4名をインターンシップ生として研究室に受入れ指導した●第37回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行なった。	
管理運営	0.15	【全学】●男女共同参画室室員としての仕事を行う。【理学部】●理学部図書委員としての業務を行う。【化学系】●化学系教務委員としての業務を行う。●化学系施設・安衛法対策委員としての業務を行う。		0.23	【全学】●男女共同参画室員として今後のダイバーシティ推進やジェンダー協働推進のあり方についての議論に参加した。●女性(うない)研究者支援センターの副センター長としての仕事を行なった。【理学部】図書委員を務めた。●【化学系】教務委員として、カリキュラム改善の議論および学部・大学院の便覧・時間割、教員免許の課程認定必要書類の作成作業を行なった●施設・安衛法対策委員として共用スペース整備の話合いに参加した。【その他】●その他の学内委員の仕事を行った。	
進路指導	0.05	●当研究室に所属する学生に対して、それぞれの希望する進路に配慮した指導や情報提供を行う。		0.08	●当研究室に所属する卒業研究の学生に対してそれぞれの希望する進路に配慮した指導や情報提供を行った。特に、理学系の大学院進学希望者には、今後の学業・研究生活に必要なと思われる指導も含めて実施した。(決定した進路:大学院進学1名、民間への就職1名)	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	池田 譲		所 属	理学部 海洋自然学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	分かりやすい共通教育と学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。		0.40	共通教育、学部専門講義については、アンケート等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。
研究	0.40	科学研究費補助金の新規の助成対象となった研究課題を遂行する。		0.40	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題(2件)を遂行し、成果を国内学会にて発表した。また、平成26年8月に那覇市で開催された沖縄シンポジウム「頭足類学を興す」、同年9月に福岡市で開催された日本水産学会秋季大会ミニシンポジウム、同年11月に長崎市で開催された日本動物行動学会第33回大会ワークショップでは、企画者、講演者として会を遂行した。また、研究成果を1本の論文として国際誌に、英文専門書の1章としてそれぞれ発表した。さらに、南カリフォルニア大学(米国)とレスブリッジ大学(カナダ)の研究チーム、マックスプランク脳研究所(ドイツ)の研究チームを短期間受け入れ、活発な研究交流を行った。
社会貢献	0.05	教員免許更新講習に向けて準備を進め、講師を恙無く務める。		0.05	教員免許更新講習の準備を進め、講師として実りある講習を行った。また、平成26年8月に那覇市で開催された沖縄シンポジウム「頭足類学を興す」および美術展「イカとタコと33人」(何れも公開)を企画運営し、広く一般に専門分野とその関連分野を敷衍した。さらに、平成26年9月にBS釣りビジョン「五畳半の狼」にゲスト出演し、専門分野である頭足類について分かりやすく解説した。その他、頭足類に関するマスコミからの照会に日常的に対応した。また、著書「イカの心を探る一知の世界に生きる海の霊長類」(NHK出版)が他大学の入試問題等として複数引用された。
管理運営	0.10	生物系広報グループメンバー、理学部自己評価委員、代議員、副主任として生物系に関わる広報活動、理学部の自己評価、生物系の管理運営に関する事柄に従事する。また、動物実験委員、アドミッション・オフィス委員として、動物実験、入試広報に関する諸事に関わる。		0.10	生物系広報グループメンバー、理学部自己評価委員として生物系の広報活動と理学部の自己評価を担当した。後者では、自己評価書の作成、外部委員による自己評価にも対応した。また、代議員、副主任として生物系と理学部の管理運営に従事し、教育研究の円滑な遂行に努めた。さらに、動物実験委員、アドミッション・オフィス委員として、動物実験の審査などの諸事、入試広報に関する諸事に関わった。また、科研費アドバイザーにも就任した。さらに、日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」について、学内グループを取り纏めて申請作業を行い、当該プログラムの採択に寄与するとともに、自身も研究担当者としてプログラムの管理運営に関わった。
進路指導	0.05	学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。		0.05	学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを随時、行った。学部4年生については、進学、就職など概ね希望の進路選択をするに至った。大学院後期課程学生については、博士号取得に向けての論文投稿と受理、学位論文作成の準備を進めることができた。また、留学へ向けたサポートも行った。ポスドクについては、各種奨励金への申請などを進め、研究者としての訓練を積ませることができた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	竹村 明洋		所 属	理学部 海洋自然学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	<p>共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(脊椎動物学など)を担当する。大学院科目(比較内分泌学特論など)を担当する。上記講義では、講義毎のメールアドレスを設定して学生の意見・感想を取り上げる工夫を凝らす。研究室所属の学部学生の卒論指導を行い、研究成果の学会発表を奨励する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す(博士後期課程学生においてはそれぞれ少なくとも1報以上を目指す)。研究室に所属している大学院生全員が国際もしくは国内学会での発表を少なくとも一回行うようにする。</p>		0.20	<p>共通教育・学部講義として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「熱帯生物生産学概論」、「沖縄のサンゴ礁」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。博士後期課程在学生在が筆頭著者の論文が国際学術誌2編に掲載された。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は7回で、研究室に所属する大学院生は全員発表した。年度目標は達成したと判断する。</p>
研究	0.25	<p>現在獲得している外部資金(科研費3件)による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国やフィリッピンの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に進め、研究論文の採択を目指す。本年度で終了する科研費が2件(基盤研究Aと挑戦的萌芽研究)があるが、引き続き同予算規模の科研費に応募する。また、重複申請が可能な基盤研究Sへの応募もめざす。</p>		0.20	<p>外部資金として3種類の科研費(基盤研究A(一般研究)、基盤研究B(海外学術調査)、挑戦的萌芽研究)を獲得した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で1300万円であった。韓国とフィリッピンを訪問し、共同研究を行った。共同研究の結果が5編の論文として発表された。共同研究による学会発表は国内外合わせて12回であった。そのうち2回はInvite speaker(国際学会)であった。基盤研究Aと挑戦的萌芽研究に応募した。年度目標は達成したと判断するが、基盤研究Bが継続であったため基盤研究Sは重複申請制限のため応募できなかった。</p>
社会貢献	0.10	<p>県内外の中学・高校の総合学習等、そして教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。中城村における一括交付金プロジェクト「ごさまるエネルギープロジェクト」の水産分野を担当し、地域での水産振興を図る。</p>		0.10	<p>教員免許状更新講習と公開講座を行ったRBCラジオ琉大ラジオキャンパスに出演した。雲雀丘中学で模擬講義を行った。中城村における一括交付金プロジェクト「ごさまるエネルギープロジェクト」の水産分野を担当し、牡蠣の陸上養殖技術開発にとりくんだ。学術雑誌に掲載された論文(4編)の査読を行った。昨年度から引き続き、Comparative Biochemistry and Physiology, Development & Reproduction, Open Journal of FisheriesのEditorial Board Memberとして雑誌の編集に携わった。年度目標は達成したと判断する。</p>
管理運営	0.40	<p>学長補佐として本学の研究推進について学長・および担当副学長を補佐する。亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進する。また、生物系主任として、生物系の運営をスムーズに進めると共に理学部や所属学科系における各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加する。</p>		0.45	<p>亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として、機構の管理運営を行った。学長補佐(研究担当)として、研究担当理事を補佐した。研究推進戦略会議企画員として本学の研究獲得向上に向けたいくつかの施策を実施した。さらに、企画経営戦略会議の委員として全学的な将来計画策定等に関わった。これらに加えて、企画経営戦略推進本部会議委員や琉大コミュニティキャンパス事業本部員としての業務を行った。生物系主任として、系運営を主体的に進めると共に理学部の各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加した。年度目標は達成したと判断する。</p>
進路指導	0.05	<p>配属の学部4年生や大学院生の進路指導を行い、個人に合わせた的確なキャリアパス形成に努める。</p>		0.05	<p>研究室所属の学生とポスドクの進路指導をし、学部学生については就職希望者(1名:沖縄銀行)と大学院希望者(1名:琉大大学院)が決定した。博士後期課程修了予定者も民間企業に内定した。ポスドク2名は、琉球大学医学部助教と早稲田大学先進理工学部助教に決定した。学部学生については5名が就職先未定で、進路指導を更に徹底する必要がある。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		立原一憲	所 属	理学部 海洋自然学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週、研究室在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。		0.30	生物学概論：毎回の講義で分からなかったこと、疑問に感じたことを提出させ、件数の多かった質問、重要と思われる質問に対して補足説明を実施した。海洋生物生産学実習Ⅱ：沖縄県栽培漁業センターの見学を行い、大学で学んだことが実社会でどう生かされるかを体験させた。大学院教育：毎月曜日に前週の報告と次週の予定を話し、学生に具体的な目標を立てさせた。	
研究	0.25	今年度は、4報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際学会1、国内学会5の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。受託研究費の獲得に努める。		0.25	今年度は現時点で6報の論文が印刷された(達成率150%)。国際学会で2回、国内学会で28回の口頭もしくはポスター発表を行った(500%)。日本魚類学会英文誌の編集委員を務めた。博士後期課程2名(うち1名は今年度学位取得予定)、博士前期課程8名、学部生12名に生活史のテーマを与え研究中である。	
社会貢献	0.25	外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月3回程度、年間36回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。		0.25	現時点(1月30日)で、52件(5件/月：達成率144%)の学外会議・審議委員会および民間企業へのアドバイスを行った。3月に辺土名高校で”環境測定1”の授業を担当予定である。また、2月に奄美大島でリュウキュウアユ保全対策の指導を行う予定である。魚類学会評議員・学会誌編集委員、水産増殖学会評議員として活動した。	
管理運営	0.15	担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。		0.15	大学院学務として9月修了者を無事送り出し、現在3月修了の準備中である。	
進路指導	0.05	卒業、修了予定者の進路に関して積極的に相談に乗り、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。		0.05	担当する修士修了予定者1名と昨年度の卒業生1名に対し、就職アドバイスを行い、両名とも来年度から水族館での職をえることができた。学部生に関しては就職希望の学生に対し、適宜相談に応じている。進学希望の学部学生5名は、いずれも大学院に進学予定である。就職活動時に推薦状が必要なケースに関しては、随時対応した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	伊澤 雅子		所 属	理学部 海洋自然学科		
職 名						
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	博物館学芸員コースの新課程対応カリキュラムに完全に移行する。それにあたって順調な運営を行うことを目指す。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当する。博士後期課程2名、前期課程学生1名、および学位取得をめざす卒業生(留学生)の研究指導を行う。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れる。4年次6名について卒業研究の指導を行う。3年次指導教員として学業・生活面に関する指導を行う。特に研究室配属の指導を行う。		0.25	博物館学芸員コースの新課程対応カリキュラムに移行し順調に進んでいる。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当した。博士後期課程2名、前期課程学生1名の指導を行った。学位取得をめざす卒業生(留学生)については1本の論文の投稿までに至った。大学院生の指導にはTARA制度も活用した。4年次6名については1名が9月に卒業し、5名が3月に卒業予定で順調に進んだ。卒業研究の指導を行う。3年次指導教員として研究室配属の指導を行った。	
研究	0.25	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。国際的には台湾の研究者との共同研究を進める。現在投稿中の1編、投稿準備中の4編の論文について受理をめざす。沖縄生物学会、日本哺乳類学会での学会講演を行う。また、書籍1冊(分筆)の完成をめざす。研究の一部は林野庁(1件)、環境省(2件)からの受託研究として実施する。沖縄生物学会役員、日本哺乳類学会評議員、奨励賞選考委員長として学会の運営にあたる。		0.30	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進めた。国際的には台湾の研究者およびタイの研究者との共同研究を進めた。それに向けて中国文化大学との部局間の交流も開始した。また、協定校である台湾東海大学で講演を行った。6編の論文を公表し、沖縄生物学会、日本哺乳類学会での学会講演を行った。また、書籍1冊(分筆)はほぼ完成に近い。また小学生向けの図鑑の改訂作業を行った。研究の一部は林野庁(1件)、環境省(2件)からの受託研究として実施した。沖縄生物学会池原賞選考委員、日本哺乳類学会評議員・奨励賞選考委員長として学会の運営にあたった。	
社会貢献	0.10	環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行なう。大阪自然史博物館、知床博物館において講演を行う。IUCNネコ科専門委員としてレッドリストにおける日本のネコ科のランクの見直しを行う。		0.10	環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べた。しかし、大学の職務などとの関係で欠席せざるを得なかったものも多く、その際はメール等で意見を送った。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行った。大阪自然史博物館において講演を行った。IUCNネコ科専門委員としてレッドリストにおける日本のネコ科のランクの見直しを終了した。また、沖縄県版レッドリストの見直しに着手した。夏休みに公開講座を実施した。2月には西表島において研究成果の還元のためのシンポジウムを開催する。	
管理運営	0.30	図書館長として図書館の運営にあたるとともに、全学の各種委員会に出席し、議論を行う。系の中では引き続き学務を担当する。		0.30	10月まで図書館長として図書館の運営にあたるとともに、全学の各種委員会に出席した。次期館長との引き継ぎを行った。生物系の中では引き続き学務を担当した。	
進路指導	0.10	4年次6名の進路指導を行なう。また、博物館学芸員コースの学生に対して就職情報を提供する。3年次指導教員として進路に関する情報を提供する。		0.05	4年次6名の進路指導を行ない、3名は就職が決定、残り3名は来年度の大学院・教職試験に向けて準備中となった。また、博物館学芸員コースの学生に対して就職情報を提供した。3年次指導教員として進路、進学、留学に関する指導を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		横田 昌嗣	所 属		理学部 海洋自然学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部の植物形態解剖学, 生物学野外実習, 進化生態学実習, 基礎ゼミ, 博士前期課程の講義を行うほか, 卒論, 博士後期課程の学生の研究指導を行い, 短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する。			0.30	当初の目的は達成した。その他, 「進化生物学特別実験」を実施し, 琉大特色科目の「琉球の自然保護」の世話人と講義の担当, 総合科目の「職業と人生」の生物系内の世話人を担当した。その他, 台湾で実施された大学院生のためのサマープログラムに参加し, 学生の指導を行った。		
研究	0.30	現在執筆中のラン科に関する著書の原稿を完成させる。編集と執筆を担当している沖縄県史自然編, 沖縄県の野生生物に関する啓蒙書(沖縄生物学会発行), 琉球列島の野生生物に関する英文の啓蒙書(琉大COE編集), 環境省版および沖縄県版レッドデータブックの原稿作成と編集作業を進める。琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し, 作成できたものから順次投稿する。			0.30	啓蒙書である「沖縄県史, 自然編」(沖縄県教育委員会), 「レッドデータプランツ」(山と溪谷社), 「南西諸島の生物多様性, その成立と保全」(南方新社), 「琉球列島の自然講座」(ポーターインク)については, 原稿を作成し, 現在印刷中である。学術論文については, 原著6報が出版された。その他については, 現在も作業中である。全体としては, おおむね当初の目的は達成した。		
社会貢献	0.15	沖縄県自然環境保全審議会(沖縄県), 沖縄県文化財保護審議会委員(沖縄県), 沖縄県環境影響評価審査会委員(沖縄県), 環境省野生生物課などの検討会委員として専門家の立場として絶滅危惧種の保全, 自然環境や文化財の保護と活用について意見を述べる。			0.15	当初の目的は達成した。当年度は特に世界自然遺産, 国内希少種, 侵略的外来種, 環境省版および県版レッドデータブックなどに関する多数の委員会に出席して, 意見を述べた。宮古島市史の編纂委員会で意見を述べ, 現地調査を3回行った。その他, 宮古島市の3カ所において開催された「伊良部島生きもの展」で, 展示パネルの執筆と写真の提供を行った。奄美市などで一般市民や小学生を対象とした野外観察会を計8回実施した。「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会に参加し, 公開シンポジウムの開催に協力した。修学旅行で訪れた神奈川県立津久井浜高校の生徒約80名を対象として沖縄の植物について講義を行った。		
管理運営	0.15	生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか, 附属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員として附属図書館の学術雑誌・データベースの購読計画の検討を行い, 琉球大学環境報告書の監査委員として学内の環境整備と管理に専門家の立場から意見を述べる。また琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラムの作成のため努力する。			0.15	当初の目的は達成した。その他, 理学部構内に植栽した樹木に解説板を付ける作業を理学部長から依頼され, 学生とともに50本の樹木について樹名板を作成し, 設置した。		
進路指導	0.10	研究室に所属する学部学生, 博士課程後期の学生の進路について助言を行う。			0.10	博士後期課程の学生については, 期日内に参考論文2報を受理させることができず, 学位を取得させることができなかったが, 引き続き特別研究員として本学に在籍させる手配をし, 論文執筆の指導を行った。卒論生については, 卒業論文の指導を行い, 卒論生は就職内定にこぎ着けた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中村 崇	所 属		理学部 海洋自然学科
			職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	講義担当科目の内容充実を図る。担当実習は、サンゴ礁生態系をより体験的に理解できるよう、瀬底実験施設にて生物生産学実習VIIIと連携しつつ実施する。また、留学生向けには、Introduction to Oceanography、短期留学プログラム、APIセミナー等のレクチャーを担当する。3名の卒研指導および1名の修論、2名の博士論文研究の指導を担当する。また、4年次の年次指導を充実させる。		0.25	講義・実習担当科目では、サンゴ礁生態系をより体系的かつ体験的に理解できるような実施ができたと言える。また、留学生向け科目では、今期の受講者が少なかったため、次年度は工夫を行う。継続している4名の卒研指導および1名の修論、2名の博士論文研究の指導を担当しつつ、4年次年次指導を適宜実施することができた。
研究	0.35	サンゴ礁生物の代謝調整能力・骨格形成メカニズムを明らかにするための研究を進める(科研若手B/科研A分担/キャンオン財団)。成果については論文として受理を目指す。また、野外での潜水調査を順次おこない、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリング調査を進める(環境省/いであ)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からのパラオにおける研究推進を進める。		0.35	サンゴ・ソフトコーラルおよび有孔虫を対象とした、代謝維持・骨格形成メカニズム研究を進めた(科研若手B/科研A分担/キャンオン財団)。成果については学会発表・論文文化を進めた。また、野外での潜水調査を順次おこない、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリング調査を進めた(環境省/久栄)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、パラオにおけるサンゴ礁モニタリングを中心とした研究を進めつつ、第2回のJCC会議・シンポジウムを現地で実施した。
社会貢献	0.10	日本サンゴ礁学会広報委員、沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わる。一般向けには、国内での公開講座およびパラオ国での公開講座・レクチャーシリーズに積極的に関わり、大学での研究成果の社会還元を促進する。		0.10	沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わった。一般向けには、国内での公開講座およびパラオ国でのシンポジウムを実施し、研究成果の社会還元を促進した。また、環境省総合研究推進費のアドバイザーとして、該当プロジェクトへの助言等をおこなった。
管理運営	0.10	学部(生物系)関連の学務担当に関わる。また、理学部のOIMAP運営委員、研究戦略推進会議の企画員を務める。ダブルディグリープログラムの運営委員として相手国教員との協議など各種業務を担当しつつ、推進に努める。		0.15	生物系学務WGにメンバーとして学部学務の実施に関わりつつ、理学部OIMAP運営委員、研究推進委員会および全学の研究戦略推進会議の企画員を務めた。併せて、ダブルディグリープログラムの運営委員として相手国教員との協議など各種業務を担当しつつ事業推進に努めた。
進路指導	0.15	4年次指導教員として、年次懇談会や、履修登録および奨学金申請等を通じた大学生生活の基礎指導をおこなう。また、就職センターや保健管理センターと連携をとりつつ、現在配属されている学部生の卒業研究指導・進学・就職の相談に対応し、進路決定のサポートをおこなう。大学院修士課程の進路相談・就職相談を行う。		0.15	4年次指導教員として、年次懇談会、履修登録および奨学金申請等を通じた大学生生活の基礎指導をおこなった。また、就職センター・保健管理センターと連携をとりつつ、現在配属されている学部生・大学院生の卒研および修論指導・進学・就職の相談に対応しつつ、進路決定サポートをおこなった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久保田 康裕	所 属		理学部 海洋自然学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	研究室の院生・学生の学位取得のために必要な学会発表、論文執筆を指導・支援する。大学院および学部担当科目を担当し、群集生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、研究を行なう上での知的基盤の構築に貢献する。			0.25	研究室の院生の研究を指導した。大学院および学部担当科目を担当し、生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、院生・学生の教育を行った。また、院生の国際学会や国内学会での発表を支援した。		
研究	0.30	研究論文の投稿・採択を目指す。日本生態学会の自然保護委員、生態学教育委員として学会活動に貢献する。国際誌(Ecological Research)のチーフエディターとして学術雑誌の発展に貢献する。科研費など外部資金を獲得し、自然環境の保全に応用できる生態学の基礎研究に努める。			0.30	複数の論文を国際雑誌に掲載させた。特に、日本の生物多様性に関する研究論文の内容は、朝日新聞や毎日新聞にも紹介され、大きな反響をよんだ。また、JSPSの大型プロジェクトに申請を行った結果採択され、今後の琉球大学における研究推進に大きく貢献した。		
社会貢献	0.10	沖縄県や環境省の事業や環境行政に関連した検討委員として、その進展に貢献する。			0.10	琉球諸島の世界自然遺産登録に関する検討委員(環境省および沖縄県)を務め、地域の自然環境保全政策に貢献した。		
管理運営	0.25	所属部局における学務(教育委員会やFD委員会の活動など)を通して、大学の管理運営に貢献する。			0.25	教育委員会をとおして、学部学科の学務に貢献した。		
進路指導	0.10	博士院生(1名)と修士院生(1名)の指導教員として、進路や就職活動に関する相談を受け付け、院生の進路決定に有益な助言ができるよう努力する。			0.10	博士院生(1名)、修士院生(1名)、学部生(2名)の進路や就職活動に関する相談を行った。修士院生と学部生の就職が決定した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		栗原 晴子	所 属		理学部 海洋自然学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	1年次指導担当として、生物系の学生の指導全般を行う。生物海洋学の基礎的知識の学習、理解を促す授業の実施 目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育、研究室の円滑な運営、研究指導の実施			0.32	1年次指導の担当をし、学生への大学生活や教育の指導全般を実施した。海洋環境学、基礎ゼミ、海洋環境科学特論、Introduction to Oceanography、生物学ゼミナールI、II、生物学実験、進化生態学実習、沖縄のサンゴ礁の講義に加え、熱帯生物学概論、短プロ、進化生態学特殊講義の世話人を実施した。修士学生3名、学部学生2名の研究指導を実施した。その他琉球大学所属の博士学生1名、フィリピン大学の博士学生1名、修士学生1名の研究指導を行った。		
研究	0.35	国際雑誌／国内雑誌への論文のと投稿 国際／国内学会でのシンポジウムのオーガナイズや研究成果発表の実施、外部資金の獲得(科研への応募等) 国内／国際共同研究の実施			0.33	国際誌に共著にて一本および著書(酸性化レポート)のリードオーサーを務めた。国際学会APCRSおよび国内の海洋学会でのシンポジウムを主催し、学内ワークショップを主催をした。国際／国内ワークショップにて各一回招待講演を実施し、その他2回の学会発表を行った。外部資金は昨年度に引き続き、科研若手B(代表)、日揮(代表)、CREST(分担)、JST-JICA(パラオ分担)、JST-JICA(フィリピン連携)に関わる研究に加え、学内競争的(中期計画萌芽(代表)および大気海洋研共同利用(代表)の助成金を新たに獲得し、国内外での共同研究を実施した。		
社会貢献	0.15	環境教育の普及活動の実施、環境保全活動への参加、ホームページやメディア等による研究により得られた成果を社会へ情報発信、学外審議会、各種委員会としての責務の実施			0.15	海洋学会環境賞選考委員会の委員長、海洋学会沿岸環境委員、サンゴ礁学会評議員、サンゴ礁学会広報委員、SCAR"Ocean Acidification action group"委員を務めた。またホームページでの情報発信や、テレビ番組「海の生き物が危ない！」の監修、宝石サンゴワークショップの実行委員等を務めた。		
管理運営	0.10	大学院学務の実施、委員会委員業務の実施			0.10	大学院学務、ハラスメント委員、理学部選挙管理委員、生物系選挙管理員に関わる業務を実施した。		
進路指導	0.10	年次指導担当として、生物系の学生への就職活動に関わる情報の提供や進路相談、研究室に所属する学生の進路相談			0.10	一年次を含め、生物系の学生への就職活動に関わる情報の提供や進路相談を実施した。また、研究室に所属する学生の進路相談を実施した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		日高 道雄	所 属		理学部 海洋自然学科	職 名		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部および共通教育担当科目を従来通り担当する。大学院のゼミは、英語による発表とし、日本人と留学生の共通講義化する。ダブルディグリープログラムの実施については引き続き協力する。専門の実習に留学生をTAとして配置することにより、英語による実習ガイドダンスも取り入れる。			0.30	大学院のゼミおよび講義(受講生12名、うち留学生3名)は英語で講義を行った。ダブルディグリーのカリキュラム検討、学生募集の調整を行った。専門実習では留学生2名をTAとして採用し、英語による指導も取り入れた。学部および共通教育の講義もおおむね順調であった。		
研究	0.30	サンゴ礁ハブプロジェクトの支援を受けた研究成果について、現在改訂中の2編、および現在準備中の2編の論文の公表を目指す。来年度の科研費に申請する。新学術「サンゴ礁学」の成果のまとめを英語版としてSpringerより出版する。第3回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムで大学院生とともに発表する。			0.30	2014年中に2編の論文を発表し、サンゴ礁ハブプロジェクトの支援を受けた研究成果については改訂稿を2編投稿中である。中期計画達成プロジェクト「サンゴの環境適応機構と多様性保全に関する研究」の代表を務めた。新学術「サンゴ礁学」の成果のまとめの英語版(Springerより出版)は現在編集作業中である。第3回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムで大学院生とともに4件の発表を行った。		
社会貢献	0.15	高等学校の生物教科書の改定に伴い、新たに導入された先端的分野の高校教員に対する講習を沖縄生物学会の協力の下に行いたい。県の環境影響評価審査会委員および、サンゴ礁保全行動計画委員会委員として社会的貢献を果たす。			0.15	沖縄生物学会内に理科教育連携WGを設置し、沖縄固有の生物の教材化や理科教育連携について話し合う場を設けた。県の環境影響評価審査会委員およびサンゴ礁保全行動計画委員会委員として社会的貢献を果たした。		
管理運営	0.20	大学院担当の副学部長として、ダブルディグリープログラムの実施と拡充、OIMAP私費大学院生の獲得・支援、教職大学院設置計画への理学部としての対応などに努力する。生物系内の広報グループとして、生物系教員の研究成果の紀要およびHP(またはデータベース)への掲載を行う。			0.20	大学院担当の副学部長として、ダブルディグリープログラムの運営に努力するとともに、国費留学生の優先配置特別プログラムの申請にも協力した。教員養成系TFメンバーとして教職大学院設置計画への理学部としての対応などに関する情報を収集した。生物系内の広報グループとして、紀要に掲載する生物系教員の研究成果の収集やフォーマット改訂を行った。		
進路指導	0.05	研究室の卒論生、大学院生にきめ細かく進路指導する。3年次の指導教員として、研究室配属、履修指導や進路指導にあたる。			0.05	研究室の卒論生2名、前期課程大学院生1名はそれぞれ就職が決まった。3年次の指導教員として、研究室配属、履修指導や生活指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		廣瀬 裕一	所 属	理学部 海洋自然学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	担当する正規の授業(学部、大学院)は従来通り、加えて短期留学プログラムでも講義を提供する。特に今年度は学部長が担当予定であった専門基礎科目の担当も行う。大学院生(博士前期・後期)の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。		0.40	担当の授業は短期留学プログラムを含め予定通り行った。今年度は学部長が免除される共通教育科目も担当している。台湾で開催された国際合同野外実習の引率を担当した。学部生3名の卒業研究を指導した。大学院生は日本動物学会九州支部大会で発表した。	
研究	0.25	現在投稿中・準備中の論文・総説計3件について受理を目指す。Visiting scientistとしてPadova大学で表面構造と自然免疫についての共同研究を実施する。科研費の申請を行うとともに、他の競争的資金への応募も検討する。		0.20	今年度7編の論文を発表した(前年度に受理されていたものが含まれる)。Visiting scientistとしてPadova大学に4週間滞在し研究及び大学院の講義を担当した。滞在時の研究成果は現在投稿中である。	
社会 貢献	0.10	離島開催の更新講習講座を提供する。出前講座の提供を登録しているので、要請があれば対応する。日本比較免疫学会役員(広報担当)として学会運営をサポートするとともに、社会へ研究情報を発信する。Invertebrate Biology誌のeditorial boardを担当する。		0.10	教員免許状更新講習を担当した。出前講座の提供を登録したが依頼がなかった。日本比較免疫学会役員(広報担当)の業務引き継ぎを行った。Invertebrate Biology誌のeditorial boardを担当した。日本動物学会大会(2016年)の実行委員を担当し、準備業務を担当した。	
管理 運営	0.25	大学院(生物系)関連の学務を担当し、新入生ガイダンス、10月/3月修了生の審査・発表会等の運営を行う。特に、リポジトリ公開の対応や、研究者倫理教育の導入など、新たな用務への対応を進める。SEMの機器管理を担当する。		0.20	大学院(生物系)関連の学務を担当し、新入生ガイダンス、10月/3月修了生の審査・発表会等の運営を行った。分担外の業務であったが、不手際もあったため、世話人としての責任は十分果たせていない。SEMの機器管理を担当した。サンゴ礁島嶼研究ハブ形成プログラムのリーダーを担当した。	
進路 指導	0.10	研究室に配属の学生の進路について助言する。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。		0.10	学部生3名のうち1名が就職、2名が進学となった。博士前期課程1名も就職が決まった。今年度は理学部で沖縄県中学理科教員の現役合格が2名あり、教職指導で一定の貢献はできていると考えている。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		